

キエー口の使い方



★日当たりと風通しのよい場所に置きましょう。分解に必要なのは、空気と日光です。

生ごみを埋めるときは、キエー口の大きさやごみの量に応じていくつかのブロックにわけて埋めましょう。



①深さ20センチくらいの穴を掘る。



大変ですが、がんばって掘りましょう！浅いと虫がわきやすく、分解も遅くなります。

②生ごみをいれる。



フタ付きの容器に数日ためると発酵が進むため、分解されやすいです。

③生ごみと土をザクザク混ぜる。



泥団子が作れるくらいの水をいれてください。土と生ごみをよく混ぜます。

④乾いた土をかけてフタをする。

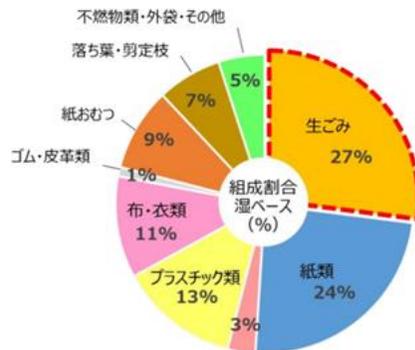


表面の土が湿っていると、においや虫がわく原因になります。表面は乾いた状態を。

ワンポイントアドバイス①

最初は控えめに！

始めは土の中のバクテリアも少ないため、たくさん生ごみをいれると分解に時間がかかります。まずは200グラム(お茶碗一杯分)くらいをいれて、様子を見ましょう。ごみがなくなったのを見るとモチベーションが上がって、次もやってみようと思えます！



掛川市の燃えるごみの**27%**が生ごみです。生ごみの**約80%**が水分のため、燃やすために多くの燃料が必要となります。生ごみを少なくするために重要なのは、水分です！

ワンポイントアドバイス②

無理をしない！

ついつい生ごみをすべて埋めたくりますが、量が多すぎたり、寒かったりすると分解に時間がかかります。**水分量が多いもの**(残飯や茶がらなど)を優先的にいれて、乾いたものや分解に時間がかかるものは燃えるごみに出すなど、処理をわけてもいいです。

バクテリアの好き嫌い

(いろいろ試してみてください)



大好き

- ・傷んだ野菜、果物
- ・火を通した野菜、果物
- ・魚の内臓、煮汁、生肉、脂身
- ・残飯
- ・もみ殻、米ぬか
- ・お茶がら、コーヒーかす



好き

- ・刻んである野菜くず
- ・果物
- ・ジャガイモなどの薄い野菜の皮
- ・ブドウなどの果物の皮
- ・パン
- ・ごはん、麺



苦手
(細かければOK)

- ・柑橘類の皮
- ・ごぼうなどの根菜類
- ・魚の小骨
- ・卵、エビの殻
- ・スイカ、カボチャの皮



基本的に人が
食べられるものは
好き、
食べられないものは
嫌いです。

嫌い



- ・貝殻
- ・鳥の骨
- ・タケノコの皮
- ・栗の皮
- ・トウモロコシの皮
- ・モモやアボカドなどの種

冬の寒さ対策

(寒くなるとバクテリアの処理能力が落ち、分解に時間がかかります)

・夏よりも土をよく混ぜる。

→土も冷えて硬くなります。底から掘り起こして全体的に空気を混ぜて、ふかふかの土を保ちましょう。

・屋内に数日置いてからキエー口に埋める。

→冬はにおいが気になりにくいので、蓋つきの容器に数日ためてから埋めてみましょう。

・使用済みの油や米ぬかを混ぜる。

・生の野菜くずは小さく刻む。もしくは熱を通す。

よくある質問

・虫が発生したらどうすればいい？

→熱い食用油を投入する、土を肥料として使用しなければ殺虫剤を使ってもいいです。ごみの埋め方が浅かったり、土の表面が濡れていると虫がわきやすいので注意してください。

・土のかたまりがある・・・。

→灰色っぽい土のかたまりは、分解が順調に進んでいる証拠です。かたまりができたらシャベルで崩しましょう。

・何日で分解されるの？

→生ごみの量や種類にもよりますが、夏場は4～5日、冬場は2週間ほどかかります。

・土は増えないの？

→生ごみは分解されてなくなるため、土は増えません。もし、肥料に使って土が減った場合は、市販の黒土を追加してください。

・液体もいれていいの？

→ラーメンの汁や使用済みの油など、液体も大丈夫です。ラーメンの汁などは排水管のつまりや河川の汚染につながるので、キエー口をぜひ活用してください。